

NEWS ニュース

2001年度日本語能力試験

昨年12月2日(日)に、2001年度の日本語能力試験が、国際交流基金と財団法人日本国際教育協会の共催で実施されました。

この試験は、日本国内外において、原則として日本語を母語としない人を対象に、日本語能力を客観的に測定し、その能力を認定することを目的としています。1984年から実施されており、今回で18回目を迎えました。

今回は海外38の国・地域の89都市、日本国内11都市の合計100都市で実施され、総計270,851人(昨年度比約15.3%増)の応募者がありました。

各級の応募者数については別表のとおりです。

日本語能力試験応募者数 (単位:人)

	海外	国内	合計
1級	48,316	35,846	84,162
2級	60,258	10,382	70,640
3級	65,579	5,879	71,458
4級	41,808	2,783	44,591
合計	215,961	54,890	270,851

第7回海外日本語教育研究会 「自国の日本語教育を語る」

平成13年12月15日(土) 国際交流基金日本語国際センターで標記研究会 - 指導者養成プログラム第1期生によ

編集部から

P.8の「日本語教師会・学会国際シンポジウム」の報告に会場の写真があります。このシンポジウムは、パネリスト同士がお互いを見渡せるように座りそれを聴衆がとり囲むというスタイルの会場で行われましたが、ねらいどおり熱気のある議論をしていただけたと思います。日本語教師として、またネットワークのけん引役としてご活躍されている先生方のお話はたいへん示唆に富むものでした。インターネットなどの手段はますます活用していきたいと思いますが、人と人が出会うことのエネルギを感じました。

さて、編集部には読者の方から住所変更のお手紙が届きますが、元の住所が分

る各国事情報告 - が行われました。第一部で、専任講師主任がセンターを中心に基金の海外日本語教育支援の概要を報告し、第二部と第三部で、基金、国立国語研究所及び政策研究大学院大学の連携による修士コースの学生が自国の日本語教育事情について発表しました。第二部は(1)高等教育機関を中心としたインドネシアの日本語教育事情についてと(2)インドにおける日本語教育史と現状について発表がありました。いずれも、問題点や今後の課題も取り上げられました。第三部は3つの分科会の形で行いました。第1分科会ではタイとフィリピンの「海外の教育現場における日本人教師との連携」、第2分科会ではマレーシアとブラジルの「学習者の動機を引き出す初級の活動」、第3分科会ではマレーシアの「日本語教育施策の思想的・社会的背景」をテーマに、それぞれ現場の日本語教師から経験や現状を紹介し、質疑応答が行われました。

当日は80~90名あまりの参加者があり、ふだんは直接聞けない現地の教師の生の声を聞くことができたという評価を多くいただきました。

この研究会の報告及び次回のお知らせはセンターのホームページに掲載されますので、ぜひご覧ください。

(修士コース第一期生 Lorna Velia DE VERA)

中等教育向け初級日本語教材集 『教科書を作ろう』改訂版の発行予定

2002年3月、『教科書を作ろう』と『続教科書を作ろう』を合わせた改訂版を発行します。改訂版は表記や練習手順などの見直しを行った他に、構成を変更し、「せつめい編」(1冊)、「れんしゅう編」(2冊) 付属音声テープ(2本)としました。この改訂版をご希望の方はホームページ(http://www.jpff.go.jp/j/urawa/j_rsrcs/jrs_04.html)から申し込んでいただくか、ファックス

からないと変更できない場合があります。住所変更の連絡の際には、なるべく「通信」を送った封筒についているラベルを同封してください。電子メールでお知らせいただく場合には、元のおて先、住所、それからラベル右下に4桁や10桁の番号がついていたらその番号もお知らせください。確実に「通信」をお届けできるように、ご協力よろしくお願いします。海外の日本語教育機関の場合には、通信の住所変更と同時に、ホームページに掲載している「海外日本語教育機関検索」の情報も修正しています。(K)

編集部では、『日本語教育通信』に対してお手紙やお手紙をお待ちしています。

(+81-48-831-7846)でご連絡ください。

なお、部数に限りがあるため、本書は海外の日本語教育関係者に対して優先的に配布しています。また配布は原則として、1機関につき1部とし、初版の正統『教科書を作ろう』をお持ちでない方を優先いたしますので、ご確認ください。

国際交流基金ブダペスト事務所 日本語ホームページ

<http://www.jfbp.org.hu/>

国際交流基金ブダペスト事務所では広報活動の手段のひとつとしてホームページを活用しております。

ハンガリーではインターネット接続のコンピュータが比較的普及しており、広報活動の手段としてのホームページは有効だと考えております。ただし、日本語が読める環境のコンピュータとなるとかなり怪しくなることもあり、従来は英語とハンガリー語の2言語を使用しておりました。英語・ハンガリー語ですと、開くこと自体には問題がないのですが、日本語のレベルが中級以上の学習者や日本人にはやや物足りないものがありました。

そこで2001年8月より、「日本語ページ」を設けました。

「日本語ページ」には

1. 「日本語教育セミナー」情報

「日本語セミナー」は日本語教師や教師志望の学習者を対象に月1回以上のペースで開催されています。

2. 日本語ニュースレター「のびのび」

現在のところ季刊です。

3. 日本語教育アドバイザーからのお知らせ

原則毎週開かれている「日本語教育相談室」のお知らせがあります。

『日本語教育通信』第42号

2002年1月発行

編集・発行 国際交流基金

日本語国際センター 情報交流課

〒336-0002 埼玉県さいたま市北浦和5-6-36

The Japan Foundation

Japanese-Language Institute, Urawa

(6-36 Kita-Urawa 5 Chome, Saitama-shi,

Saitama 336-0002, Japan)

TEL. 048-834-1184 FAX. 048-830-1588

E-Mail jfnckt@jpf.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Japan Association for Cultural Exchange

(ACE Japan)

(表紙イラスト: 村井宗二) 古紙100%再生紙使用